

## 令和3年度 全国安全週間を迎えるにあたって

全国安全週間は、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、昭和3年に初めて実施されて以来、一度の中断もなく続けられ、本年度で94回目を迎えます。

令和3年度全国安全週間は、

### 「 持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場 」

のローガンの下、7月1日から7日までの間、全国で展開されます。

産業安全に携わる関係者の皆様のご理解の下、各種安全管理活動を通じて安全水準は着実に向上してきておりますが、依然として多くの労働災害が発生しております。

群馬県内の労働災害による死亡者数は、令和2年は令和元年と比較して1人減、また、昭和23年に統計を取り始めてから最少の10人となりました。

一方、休業4日以上之死傷者数は、昭和54年の6,325人をピークに以降減少してはきましたが、近年は増減を繰り返しており、令和2年は令和元年と比較して106人増加の2,507人となりました。

また、平成30年度から令和4年度までを計画期間とした「第13次労働災害防止計画に基づく群馬労働局推進計画」の3年目の取組状況は、死亡者数は3年間の目標数45人に対し41人で8.89%減少となり堅調な推移となっておりますが、死傷者数は最終目標値2,162人に対し2,507人で15.95%の増加となり大変厳しい状況です。

これらのことから、第13次労働災害防止計画の4年目に当たる本年度は、最終目標である、①死亡者数を前計画期間中の総数の15%以上減少、②死傷者数を平成29年と比較して、令和4年までに5%以上減少を達成できるよう、働く高年齢者の増加等の就業構造の変化や、新型コロナウイルス感染症に伴う社会情勢等の変化に対応した、継続的で効果的な更なる取組が求められています。

労働災害を防止するためには、各事業場において、トップ（事業者）による労働災害を撲滅する強い決意と、労使一体となった計画的な取組の推進と実践により、労働災害ゼロの機運を高めることが重要です。

全国安全週間を契機に、労働災害防止の重要性について改めて認識を深めていただき、安全活動の確実な実施をお願いいたします。

なお、本年度の全国安全週間については、昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策について十分留意しながら、取り組んでいただきますよう重ねてお願いいたします。

群馬労働局長 丸山 陽一